

よくわかる L^AT_EX 小説

All You Need Is L^AT_EX

PARALLEL ACT

表紙用ダミーページ

序

0.1 はじめに

「 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 小説同人制作術」を発行したのは、2010 年 6 月 27 日でした。「 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 小説組版術」を発行したのは、2012 年 5 月 5 日でした。

それから 2 年半程経ち、再びテクニックが蓄積されてきました。例えば行頭や行末に処理をして、今まで以上にべた組みするテクニック。挿絵差し替え様に PDF を分割して生成するテクニック。紙面に印刷されるタイプの隠しノンプルを出すテクニック等です。

それらを実現するテクニックを解説します。

ただ、それらを全部真面目に実現させようとするとうまくいきません。そして、段々「分かる人には分かる」「さりげない違い」レベルになってきています。もちろんそのさりげない違いが、読んでる時の気持ち良さにも繋がって来ます。しかし、そこまでしなくても十分な人のために、初級・中級・上級の様な、ステップアップしていく様な感じで解説していきたいと思います。

また、「 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 小説組版術」には同人誌印刷所へ入稿する際のテクニックは控えめだった上、「 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 小説同人制作術」の在庫もほぼ無くなった事なので、改めて説明します。

本書のタイトルですが、松坂洋先生の「よくわかる現代魔法」「All You Need Is Kill」のもじりです。松坂洋先生は 10 年前のインタビューで、執筆に Meadow, SKK, perl, $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 等を使っていると答えていました。

それをそのまま印刷しているか、レイアウト確認程度なのかは分かりません。

「All You Need Is Kill」は石井明朝 NKL だったので、SAPCOL で組版し直したのか、dvi を石井明朝 NKL で出力するサービスを使ったのか……多分前者だとは思いますが。

ともかく、アニメとハリウッド映画にあやかり T_EX 使いの先生に敬意を表して、本書のタイトルとしました。

なお、幾つかのコマンドライン操作等は、Vine Linux で動かす事を前提にしています。L^AT_EX の部分については、Windows や Mac OS でも同様に動くと思います。

目次

序		i
0.1	はじめに	i
第 1 章	小説組版 初級	1
1.1	最初の tbook	1
1.2	段落の始め方	4
1.3	文字の大きさを変更する	6
1.4	改ページ	7
1.5	includeonly 設定	8
第 2 章	小説組版 中級	11
2.1	tondbook.cls 解説	11
2.2	行送り	14
2.3	簡易レイアウト	14
2.4	簡易ルビ	15
2.5	フォントの切り替え方	17
2.6	記号の出し方	19
2.7	ヘッダの組み方	23
2.8	空行と空白ページ	25
2.9	目次の出し方	26
2.10	sty ファイル読み込み	26

第 3 章	小説組版 上級	31
3.1	レイアウト	31
3.2	行の組み方	43
3.3	句読点・括弧類の組み方	51
3.4	傍点の組み方	58
3.5	拗音・促音	58
3.6	文字を小さくする場合	59
3.7	文字を大きくする場合	59
3.8	欧文	62
3.9	見出しの組み方	62
3.10	奥付	65
3.11	高度ルビ	66
3.12	色の指定	80
3.13	フォント追加	83
第 4 章	画像の扱い	99
4.1	画像フォーマット	99
4.2	RGB・CMYK 表現	109
4.3	sRGB と AdobeRGB	110
4.4	解像度	112
4.5	アンチエイリアス	119
4.6	小さい画像の挿入	121
4.7	画像データの切り替え	123
4.8	断ち切り	128
4.9	Photoshop でのデータ作成	130
4.10	Illustrator でのデータ作成	131
第 5 章	印刷所入稿	137
5.1	オフセット印刷	137
5.2	オンデマンド印刷	139
5.3	表紙加工	142

5.4	紙の種類	142
5.5	印刷所選択	144
5.6	入稿用 PDF 作成	147
5.7	入稿用画像データ作成	159
5.8	データ圧縮	165
第 6 章	おまけ知識	169
6.1	Emacs セットアップ	169
6.2	AUCT _E X の使い方	172
6.3	わいせつ物と不健全図書	174
あとがき		179
索引		181

第 1 章

小説組版 初級

1.1 最初の tbook

L^AT_EX の解説書では、縦書きをするには `tbook.cls` を使うと書いてあります。では、取りあえず書いてみましょう。

保存する時のファイル名は、半角英数記号のみにしておきましょう。日本語ファイル名はトラブルの元です。

ソースコード 1.1 素の tbook での組版

```
1 \documentclass[a5j,twocolumn]{tbook}
2 \begin{document}
3
4 \chapter{旅行前準備}
5
6 \section{}
7
8 \noindent\null
9 「よお、待たせたか？」\\
10 「いいえ、今来た所よ」
11
12 大学の講義が終わって、俺は自宅の最寄り駅に到着した。その改札の前で、黒
13 猫が待っていた。高校が終わって直接来たのだろう。制服のままだ。衣替えも
14 終わっているので、上着を着ていない。ワイシャツ姿が眩しい。
15
```

16 進学して別々の学校になると、どうしても会う機会は減る。放課後や休日は貴重
17 な時間と saying いてい。

18
19 暫く並んで歩いた後、喫茶店に入る。

20
21 俺と黒猫のどちらかの家に行っても良いんだが、黒猫の家には妹たちがいて、
22 世話をしなくてははいけない。もちろん日向ちゃんや珠希ちゃんは大好きだし、
23 世話をするのは嫌いじゃないが、やっぱり恋人同士は二人っきりの時間も欲しい
24 じゃないか。

25
26 では俺の家はどうかというと、お袋がいる。

27 俺と黒猫は親公認になっているが、やっぱり親がいる家でいちゃつくのは抵抗
28 がある。

29
30 と言う事で、喫茶店に入るわけだ。

31
32 話す事は、最近のゲー研は何をやっているかとか、大学の講義はどんなだとか、
33 くだらないと言えはくだらない事。でも俺達はそんな時間が大好きだ。

34
35 `\section{}`

36
37
38 翌日、六限目の体育の授業が終わり、私は女子更衣室で体操服から制服に着替
39 える。後はホームルームのみで今日の授業は終わる。皆気が緩んで、女子更衣
40 室は騒がしい。

41
42 ほぼ着替え終わり、制服の紐ネクタイを結んでいるとクラスメートの女子二人
43 が近寄ってきた。以前の様に孤高の存在とまではいかずとも、クラスメートと
44 話す事はほとんど無い。そもそも共通の話題がほとんど無いのだ。一体何の用
45 だろうか？

46
47 `\end{document}`

tbook.cls へのオプションは、`a5j,twocolumn` だけです。これは、A5 サイズ 2 段組みのオプションです。これだけだと、章タイトルに番号が付き、節も「1・1」と言う番号になります。章タイトルはともかく、節では余り見ない形式です。

ページの左側を見ると、1 段目と 2 段目の行が並んでいず、ずれています。「1・1」では少しだけ左ずれ、「1・2」では、半行もずれて、交互になっているように見えます。

第1章 旅行前準備

1・1

「よお、待たせたか？」

「いいえ、今来た所よ」

大学の講義が終わって、俺は自宅の最寄り駅に到着した。その改札の前で、黒猫が待っていた。高校が終わって直接来たのだろう。制服のままだ。衣替えも終わっているのだから、上着を着ていない。ワイシャツ姿が眩しい。

進学して別々の学校になると、どうしても会う機会は減る。放課後や休日は貴重な時間と言っている。暫く並んで歩いた後、喫茶店に入る。

俺と黒猫のどちらかの家に行っても良いのだが、黒猫の家には妹たちがいて、世話をしなくてはいけない。もちろん日向ちゃんや珠希ちゃんは大好きだし、世話をするのは嫌いじゃないが、やっぱり恋人同士は二人っきりの時間も欲しいじゃないか。

では俺の家はどうかというと、お袋がいる。俺と黒猫は親公認になっているが、やっぱり親がいる家ではいちゃつくのは抵抗がある。

と言う事で、喫茶店に入るわけだ。

話す事は、最近のゲー研は何をやっているかとか、大学の講義はどんなだとか、くだらないと言えはくならない事。でも俺達はそんな時間が大好きだ。

1・2

翌日、六限目の体育の授業が終わわり、私は女子更衣室で体操服から制服に着替える。後はホームルームのみで今日の授業は終わる。皆気が緩んで、女子更衣室は騒がしい。

さらに、字間も均等でなく、「大学の」の行と「着した」の行を見てみると、横もずれています。

これらのずれを気にしなければ、初級くらいで十分です。気にする場合、中級や上級に読み進めましょう。

1.2 段落の始め方

まず、段落の書き方です。L^AT_EX では、段落は 1 行空けます。日本語の場合改行は無視されますが、欧文では半角空白扱いになります。特に後者はマクロ組む時によく邪魔してきます。

つまり、段落は 1 行を何十何百文字と書くのではなく、程々の所で留めておいて、空白行で段落の区切りとします。この辺りは、Windows 等のエディタやワープロと違う所です。むしろ Web 小説の書きの方が近いかもしれません。

段落としての改行ではなく、強制改行したい場合は\\ です。

段落の書き出しは全角下がりとします。その為の設定は下記ですが、普通はわざわざ設定しなくてもデフォルトでこうなっています。

```
\setlength{\parindent}{1zw}
```

この設定の時は、段落の始めに全角空白を入れてはいけません。L^AT_EX は全角空白は、ただの文字としか認識しません。全角空白を入れると、2 字下がる事になります。

改行の初めの行頭に起しの括弧類（始め括弧類）が来る場合、すなわち科白（台詞）は、「文字の組方ルールブック」には全角下がりとありますが、最近は二分下がりが多いです。折り返しの行頭に括弧類が来る場合は、天ツキに組みます（二分ドリベタ組にし、行頭いっぱい）。

段落初めで二分下がりにする場合、括弧の前に`\noindent`を付けるか、前の行で`\noindent\null`を付けます。段落中だと、改行\\で出来ます。

ただし、L^AT_EX の環境によっては、全角下がりになる場合があります。

なお、ここでの全角下がり、括弧の横棒の前に、全角分の空きがあることです。二分下がり、半角分の空きがあることです。

図 1.2 では、カギ括弧が二分下がり、括弧が天ツキです。

```

1 \noindent\null
2 「 | T 業界とか。油でキーボードが汚れるでしょ。一々拭くのも面倒臭いし」 \\
3 「 そ、油の付いた手でカメラや写真触るわけにはいかないし。でもポテチは食
4 べたいし」 \\
5 「 笹子さんも早く食べたら？美味しいよ、これ」
6
7 三人対一人ではとても\kana{敵}{かな}わない。まるで自分が変人(へんじん)
8 みたいだ。それと咲子さん、勧めてるけど、このポテチは君のじゃないだろう。
9
10 笹子はお腹も空いている事だし、袋に手を伸ばす。

```

もしくは、`\parindent` を `0zw` にし、字下げは全角空白を使用。科白は `\noindent\null` を付けない、と言うやり方でも良いかもしれませんが。科白の改行は、1行開けるでも、`\\` でも、どちらでもいけます。

```

1 「 | T 業界とか。油でキーボードが汚れるでしょ。一々拭くのも面倒臭いし」
2
3 「 そ、油の付いた手でカメラや写真触るわけにはいかないし。でもポテチは食
4 べたいし」 \\
5 「 笹子さんも早く食べたら？美味しいよ、これ」
6
7 三人対一人ではとても\kana{敵}{かな}わない。まるで自分が変人(へんじん)
8 みたいだ。それと咲子さん、勧めてるけど、このポテチは君のじゃないだ
9 ろう。
10
11 笹子はお腹も空いている事だし、袋に手を伸ばす。

```

`\noindent\null` を一々打ち込むのは面倒です。しかし、`Wnn7` や `ATOK` だと入力補完機能により、全部を打ち込む必要はなく、最初少しか入力した後 `TAB` で補完してくれます。

また、`\NI` と定義して、文字数を節約しても良いです。

```

1 \newcommand{\NI}{\noindent\null}

```

「IT業界とか。油でキーボードが汚れるでしょ。一々拭くのも面倒臭いし」

「そ、油の付いた手でカメラや写真触るわけにはいかないし。でもポテチは食べたいし」

「笹子さんも早く食べたら？ 美味しいよ、これ」

三人対一人ではとても敵^{かな}わない。まるで自分が変人（へんじん）みたいだ。それと咲子さん、勧めてるけど、このポテチは君のじゃないだろう。

笹子はお腹も空いている事だし、袋に手を伸ばさず。

図 1.2 段落例

1.3 文字の大きさを変更する

文字の大きさを変更するコマンドで、標準的な物は、表 1.1 があります。これらは、`tbook.cls` のオプションによって、サイズが変わります。オプション無しの時、もしくは `10pt` の時、`\normalsize` は、`10pt` になります。`11pt` の時は、`11pt`、`12pt` の時は、`12pt` になります。

また、注意しなければならないのは、`1 インチ = 72.27pt` と、よく DTP で使われる、`1 インチ = 72pt` と大きさが異なることです。さらにこのサイズは欧文基準で、和文は `0.962216` 倍した物になります。つまり、`\normalsize` が `10pt` の時、漢字の大きさは `9.62216pt` となります。

表 1.1 文字の大きさ

命令	10pt	11pt	12pt
<code>\tiny</code>	5pt	6pt	6pt
<code>\scriptsize</code>	7pt	8pt	8pt
<code>\footnotesize</code>	8pt	9pt	10pt
<code>\small</code>	9pt	10pt	11pt
<code>\normalsize</code>	10pt	11pt	12pt
<code>\large</code>	12pt	12pt	14pt
<code>\Large</code>	14pt	14pt	17pt
<code>\LARGE</code>	17pt	17pt	20pt
<code>\huge</code>	20pt	20pt	25pt
<code>\Huge</code>	25pt	25pt	25pt

1.4 改ページ

改ページ命令でよく使うのは、`\newpage`、`\clearpage`、`\cleardoublepage`です。

`\newpage` は、一段組みの時は単純に改ページします。二段組みの時、上段で使用すると改段して下段から始まり、下段で使用すると、改ページします。

`\clearpage` は、図表などを出力してから改ページします。二段組みの上段で使用しても、改ページします。

`\cleardoublepage` は、図表などを出力してから改ページします。二段組みの上段で使用しても、改ページします。さらに、右のページから始まるように空白ページを入れてから改ページします。つまり、横組みの時は奇数ページから始まり、縦組の時は偶数ページから始まります。

改ページコマンドを連続で使用しても無視されます。この場合、`\mbox{}`を入れると改ページされます。このコマンドは、入れても何も出力されません。

1.5 includeonly 設定

L^AT_EX では `\include` コマンドで他のソースを読み込み、ソースを分割することができます。main.tex に下記の記述があるとします。

```
1 \include{title}      % タイトル
2 \include{first}     % まえがき
3 \include{episode-01} % 第 1章
4 \include{episode-02} % 第 2章
5 \include{episode-03} % 第 3章
6 \include{episode-04} % 第 4章
```

これで、main.tex から、title.tex 等を読み込みます。この時 .tex というサフィックスは付けません。

1つのファイルに長々と記述するのではなく、分割することにより、ソースの見通しを良くしたり、流用性を高めたりすることが出来ます。また、全てのソースを毎回コンパイルするのではなく、一部分だけコンパイルし、編集作業を効率化できます。

```
1 \includeonly{
2   title,
3   % first,
4   % episode-01,
5   % episode-02,
6   % episode-03,
7   episode-04,
8   % episode-05,
9   % last,
10  imprint
11 }
```

プリアンブルに `\includeonly` コマンドを記述することにより、読み込むソースを選択します。この場合、title, episode-04, imprint のみを読み込み、first, episode-01, episode-02, episode-03, episode-05, last を読み込みません。これで、episode-04.tex の記述に専念できます。

`\include` コマンドの場合、そこで改ページが入ります。改ページを入れたくない場合は、`\input` コマンドを使います。ただし、このコマンドでは`\includeonly` コマンドで、読み込みを制御することができません。`\include` コマンド自体をコメントアウトします。

第 2 章

小説組版 中級

2.1 tondbook.cls 解説

少し高度なことをするために、tbook.cls を改造した、tondbook.cls を使います。これは、この本のサポートページで公開しています。使い方は簡単で、書こうとするディレクトリと同じ場所に置き、tbook と書いてある場所を、tondbook と書き換えるだけで使えます。

```
1 \documentclass[a5j,twocolumn]{tondbook}  
2 \documentclass[a6paper,10pt,11.5bQ]{tondbook} % 標準
```

1 行目はソース 1.1 を単純に置き換えただけで、結果は図 2.1 です。それだけで行が大幅揃っています。2 行目は文庫用です。

元々文庫 (A6)・1 段組み用として作り、A5・2 段組みは tA5doubook.cls としてたのですが、後者は全くメンテナンスしていません。基本的に tondbook.cls で十分です。「Dear My Momo」の第 1 版はそれで作りました。

tondbook.cls には、tbook.cls に対してオプションを追加しています。jsfontzoom は、MIN10/JIS/OTF フォントメトリック使用時に使います。jsfontzoom は、morisawa.sty を使う時に使います。

後者と前者では、10pt の欧文に合わせる和文のサイズが違います。前者では 9.62216pt で、後者は 9.24687pt です。和文の大きさを 10pt にしたい場合は、前者

第1章 旅行前準備

2

旅行前準備

1

「よお、待たせたか？」

「いいえ、今来た所よ」

大学の講義が終わって、俺は自宅の最寄り駅に着した。その改札の前で、黒猫が待っていた。高校が終わって直接来たのだろう。制服のままだ。衣替えも終わっているのだから、上着を着ていない。ワイシャツ姿が眩しい。

進学して別々の学校になると、どうしても会う機会は減る。放課後や休日は貴重な時間と言っている。暫く並んで歩いた後、喫茶店に入る。

俺と黒猫のどちらかの家に行っても良いのだが、黒猫の家には妹たちがいて、世話をしなくてはいい。もちろん日向ちゃんや珠希ちゃんは大好きだし、

世話をするのは嫌いじゃないが、やっぱり恋人同士は二人っきりの時間も欲しいじゃないか。

では俺の家はどうかというと、お袋がいる。俺と黒猫は親公認になっているが、やっぱり親がいる家ではない。いやつくのは抵抗がある。

と言う事で、喫茶店に入るわけだ。

話す事は、最近のゲー研は何をやっているかとか、大学の講義はどんなだとか、くだらないと言えはくだらない事。でも俺達はそんな時間が好きだ。

2

翌日、六限目の体育の授業が終わわり、私は女子更衣室で体操服から制服に着替える。後はホームルームのみで今日の授業は終わる。皆気が緩んで、女子更衣室は騒がしい。

ほぼ着替え終わり、制服の紐ネクタイを結んでみるとクラスメートの女子二人が近寄ってきた。以前のように孤高の存在とまではいかずとも、クラスメー

図 2.1 素の tondbook での組版

では、 $10/0.962216 = 10.3926769\text{pt}$ にする必要があります。12 級にしたい場合は、 $12/0.962216 = 12.471212285$ 級です。

級は聞き慣れない単位だと思いますが、後で解説します。

このような値で大きさを定義するのは分かりにくいので、`\bQ` という単位を定義してあります。どちらの倍率にするかを、このオプションで切り替えます。

```

1 \newdimen\bQ% 文字サイズ指定用級
2 \DeclareOption{jsifontzoom}{% MIN10/JIS/OTF用サイズ調整
3 \bQ=0.2598169226trueemm}% 0.25/0.962216 = 0.2598169226
4 % デフォルト↑
5 \DeclareOption{jsfontzoom}{% jsclasses/morisawa.sty用サイズ調整
6 \bQ=0.270361754trueemm}% 0.25/0.924687 = 0.270361754

```

オプション `11.5bQ` は、`\bunkohonbunsize` を 11.5 級、`\bunkorubysize` を 5.75 級にするオプションです。

本文を級数で指定したい場合は、`11bQ`、`11.5bQ`、`12bQ`、`12.5bQ`、`13bQ` が選べ、`\bunkohonbunsize` を 11 級、11.5 級、12 級、12.5 級、13 級に、`\bunkorubysize` をその半分にします。

本文の大きさを `pt` で指定したい場合は、`7bbp`、`7.5bbp`、`8bbp`、`8.5bbp`、`9bbp`、`9.5bbp`、`10bbp`、`10.5bbp`、`11bbp` とすると、本文サイズを `7bp`、`7.5bp`、`8bp`、`8.5bp`、`9bp`、`9.5bp`、`10bp`、`10.5bp`、`11bp` とします。

さらに、本文中は様々なフォントサイズを級数で指定できます。

これは
`{\fontsizeI 1 級}`、
`{\fontsizeII 2 級}`、`{\fontsizeIV 4 級}`、`{\fontsizeVI 6 級}`、
`{\fontsizeVIII 8 級}`、`{\fontsizeX 10 級}`、`{\fontsizeXII 12 級}`、
`{\fontsizeXIV 14 級}`、`{\fontsizeXVI 16 級}`、`{\fontsizeXVII 18 級}`、
`{\fontsizeXX 20 級}`、`{\fontsizeXXII 22 級}`、`{\fontsizeXXIV 24 級}`です。

これは、`1`、`2`、`4`、`6`、`8`、`10`、`12`、`14`、`16`、`18`、**20 級**、**22 級**、**24 級**です。

さらに `v` を付けると、0.5 級増えます。`\fontsizeIv` は 1.5 級です。これらは、1 級～60 級まで定義してあります。ただし、25 級以上は 0.5 級単位は定義してあ

りません。

二分空きや四分空き用に、`\nibuskip`、`\sibuskip` もあります。

2.2 行送り

行送りは`\baselineskip` で設定します。行送り = 文字サイズ + 行間です。

```
1 \setlength{\baselineskip}{19trueH}
```

2.3 簡易レイアウト

レイアウトは以下のように指定します。mm で指定することも、zw と文字幅で指定することも出来ます。ワープロでは 1mm 単位や 0.1mm 単位ぐらいまでしか指定できない物もありますが、`LATEX` では遥かに細かく指定することができます。

コメントとして各パラメータの説明をしています、詳しくは後に説明します。

```
1 \setlength{\textwidth}{42zw} % 版面幅
2 \setlength{\columnsep}{3zw} % 段組みの中央余白幅
3 \setlength{\parindent}{1zw} % 段落行頭インデント
4
5 \setlength{\parskip}{0zw} % 段落間幅
6
7 \setlength{\textheight}{26.333333zw} % 版面高さ
8
9 \setlength{\headwidth}{\textheight} % ヘッダー幅
10 \setlength{\headheight}{3trueem} % ヘッダー高さ
11 \setlength{\headsep}{6trueem} % ヘッダーと本文との余白
12 \setlength{\oddsidemargin}{-13.0trueem} % 奇数ページの左余白
13 \setlength{\evensidemargin}{-9.5trueem} % 偶数ページの左余白
14 \setlength{\topmargin}{-20trueem} % ヘッダーより上の余白
```

2.4 簡易ルビ

ルビを実現するためには、藤田先生のパッケージ^{*1}、`furikana.sty`、`furiknkt.sty`、八登崇之（ZR）さんのパッケージ^{*2} `pxrubrica.sty`があります。好きな方を使いましょう。

藤田先生のマクロを読むには、プリアンブルで以下のように指定します。

```

1 \usepackage{furikana}      % 中ツキルビ
2 \usepackage{furiknkt}    % 肩ツキルビ
3 \kanadashion             % 版面右端ではみだしあり
4 \kanaktdashion          % 版面右端ではみだしあり肩ツキ

```

`\kanadashion`、`\kanaktdashion` は、第 1 行目で、ルビをテキスト枠からはみ出させる設定です。これをしないと、第 1 行目にルビがある場合と、ルビが無い場合で、レイアウトがずれてしまいます。

簡単な使用例はこうなります。詳しくは「`pLATEX 2ε` 入門・縦横文書術」や、`sty` ファイルを覗いてみてください。

```

1 \kana{行}{い}く。これが、中ツキルビです。
2
3 \kanakt{行}{い}く。これが、肩ツキルビです。
4
5 連続して使う場合は少し違う命令なります。
6
7 \Kanakt{祐,巳}{ゆ,み}さんは\Kanakt{祥,子}{さち,こ}さまの
8 \kanakt{眩}{つばや}きに\Kana{興味,津々}{きようみ,しんしん}です。

```

ここで、^{きようみ}興味と言う単語のルビで、小さな「やゆよ」^{ようおん}すなわち拗音を、「やゆよ」と表記しました。印刷では、拗音や小さな「っ」^{そくおん}促音はルビでは小書きにしない習慣になっています。これはただでさえ小さいルビで小書きにすると、読み難くなったり、上手く印刷で出ないとか、そういう理由があるらしいです。最近では、小書きにすることもあります。

^{*1} <http://homepage3.nifty.com/xymtex/fujitas2/texlatex/>

^{*2} <https://github.com/zr-tex8r/PXrubrica>

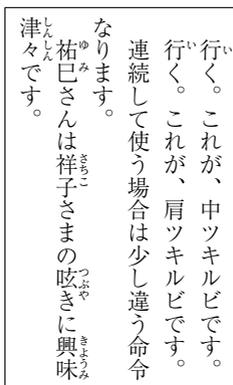


図 2.2 ルビ使用例

```

1 \bunkohonbunsize
2 % \let\rubykatuji=\bunkorubysize % ノーマル
3 \def\rubykatuji{\rubyfamily\bunkorubysize} % otf 使用
4 \furikanaaki=0.5\bQ

```

そして、これがルビのサイズ設定です。本文中、すなわち`\begin{document}`の後に記述します。ルビのサイズは、本文の文字の半分です。`\bunkorubysize`は`\bunkohonbunsize`の半分に設定しているので、これを使用します。

単純に`\rubykatuji`を指定するだけだと、ルビ用フォントが使われなくなるので、`\rubyfamily`も一緒に指定します。otf パッケージを使わない場合は、`\let\rubykatuji=\bunkorubysize`だけで十分です。

`\furikanaaki`は本文とルビとの距離です。

これだけで、取りあえずルビは使えますが、これだけでは組版ルールに乗っ取ったルビの使用はできません。ルビの設定は複雑で奥深く、何ページにも渡る説明が必要です。よって、それは上級編で説明します。

2.5 フォントの切り替え方

```
\usepackage[expert,deluxe]{otf}
```

齋藤修三郎氏の `otf` パッケージを読むための設定です。Adobe-Japan1-5 の文字を扱うことが出来ます。これを使えば、「守護月天小隣」と書けたりします。ただし、対応フォントを購入したり、インストールしたり、設定したり等の作業は必要です。

`expert` は、仮名が縦書き用・横書き用に切り替わったり、ルビもルビ用仮名に切り替わるオプションです。

ただ、小塚明朝やヒラギノ W3 なら縦書き用・横書き用に切り替わりますが、リュウミンやヒラギノ W2 等は、同じデザインの文字しか入っていないので、見た目には変わりません。

ルビ用は、小さくても擦れないように、少しウェイトが太くなっています。600dpi で印刷する場合、ルビサイズを 6 級、すなわち 1.5mm に設定すると、35dot です。昔の 48dot プリンタよりも小さなサイズで打たなければなりません。

ちなみに、写研のルビ用グリフは、濁点が大きめにデザインがされています。ついでに、最近の電撃文庫のルビは、ルビ用グリフではなくノーマルグリフです。

`deluxe` は多ウェイト化のオプションです。5~7 ウェイトも使えるようになります。

表 2.1 otf フォント一覧

ファミリー	シリーズ	仮名	漢字	ルビ
mc	m	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ
mc	bx	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ
hmc	l	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ
gt	m	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ
gt	bx	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ
mg	m	ひらかな カタカナ	漢字	振りかな カナ

表 2.2 ルビ用フォント

ノーマル	ルビ
あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと なにぬねの はひふへほ まみむめも やゆよ わるゑをん がぎくげご ざじずぜぞ だちづつでど ばびぶべぼ ぼびぶべぼ	あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと なにぬねの はひふへほ まみむめも やゆよ わるゑをん がぎくげご ざじずぜぞ だちづつでど ばびぶべぼ ぼびぶべぼ

現在私の環境で、使えるフォントは表 2.3 となっています。

表 2.3 使用可能フォント一覧

ファミリー	シリーズ	フォント	縦組時フォントメトリック
mc	m	リュウミン L	tmin10
mc	bx	中ゴシック BBB	tmin10
gt	m	中ゴシック BBB	tmin10
gt	bx	中ゴシック BBB	tmin10
hmc	o	游楽五号仮名	jis-v/otf
hmc	m	リュウミン L	jis-v/otf
hmc	bx	太ミン A101	jis-v/otf
hmc	l	ヒラギノ W2	jis-v/otf
hgt	m	中ゴシック BBB	jis-v/otf
hgt	bx	太ゴ B101	jis-v/otf
mg	m	じゅん 101	jis-v/otf
dfkoinm	m	康印体	jis-v/otf

「`LATEX` 小説同人誌制作術」では、`otf-with-morisawa.sty` を作って、`morisawa.sty` と共存させましたが、最近は `otf.sty` だけ使っています。`tmin10` フォントメトリックだと、組み方がおかしくなるからです。

和字のファミリーを変えるのは、`\kanjifamily` で、シリーズを変えるのは `\kanjiserries` です。それらを書いた後、最後に `\selectfont` をします。

長々とコマンドを打つのが面倒な場合、よく使うフォントはマクロ定義すると便利です。例えば、太ミン A101 を使う場合、`\hutomin` と定義すると楽でしょう。

```
\newcommand{\hutomin}{\kanjifamily{hmc}\kanjiserries{bx}\selectfont}
```

2.6 記号の出し方

小説でも色々な記号を使います。その前に、縦中横です。

```

1 \newcommand{\rensujiZW}[1]{%
2   \leavevmode
3   \hbox to 1zw{\centering\rensuji*{#1}}%
4 }
5 \newcommand{\rensujiZWN}[1]{%
6   \leavevmode
7   \hbox to 1zw{\centering\rensuji*{\ajTsumesuji*{#1}}}%
8 }

```

```

1 今日は2月\rensuji{20}日
2 今日は2月\rensujiZW{20}日
3 今日は2月\rensujiZWN{20}日

```

今	今	今
日	日	日
は	は	は
2	2	2
月	月	月
20	20	20
日	日	日

図 2.3 縦中横

単純に`\rensuji` 使うと、字間がずれてしまうので、`\hbox` で囲みます。さらに、半角英数と全角英数とでは字体が違うので、和字の方を使うようにします。

ただ、`\ajTsumesuji*`ですが、執筆時の環境だとバグがあるのか、`xdvi`だと正しく見えているのですが、`dvipdfmx`でPDFにした後は変な表示になります。

```

1 \newcommand{\ヴ}{\ajLig{う` }}
2 \newcommand{\HEART}{\ajHeart}
3 \newcommand{\笑}{\<(笑) \>}

```

「う」「♡」「(笑)」を出してみます。

```

1 \newcommand{\ExQue}{\nobreak\ajLig{!?!}}
2 \newcommand{\ExEx}{\nobreak\ajLig{!!}}
3 \newcommand{\QueEx}{\nobreak\ajLig{?!}}
4 \newcommand{\QueQue}{\nobreak\ajLig{??}}

```

「!?!」「!!」「?!」「??」を出します。Adobe-Japan1-5を含むフォントだと、全部出ます。「!?!」「!!」「?!」「??」 Adobe-Japan1-4 や Adobe-Japan1-3 だと、小細工をする必要があります。

```

1 \newcommand{\ExQue}%
2 {\nobreak\rensujiZW{\scalebox{1}[1]{! \hspace{-0.6zw}? }}}
3 \newcommand{\ExEx}%
4 {\nobreak\rensujiZW{\scalebox{1}[1]{!! \hspace{-0.6zw}! }}}
5 \newcommand{\QueEx}%
6 {\nobreak\rensujiZW{\scalebox{1}[1]{?! \hspace{-0.6zw}! }}}
7 \newcommand{\QueQue}%
8 {\nobreak\rensujiZW{\scalebox{0.8}[1]{?? \hspace{-0.5zw}? }}}

```

あれ?これは!?

あれ? これは!?

わざわざ和字をこねくり回すのは、半角と全角で字体が違うからです。逆に全てのクエスチョンマークやエクスクラメーションマークを半角で書くという手もあるでしょう。

「高坂桐乃の消失」や「俺の妹の友達が修羅場すぎる」では、クエスチョンマークやエクスクラメーションマークを似せるために、通常のクエスチョンマークやエクスクラメーションマークもマクロを使いました。

```

1 \newcommand{\Z}{\hspace{1zw}}
2
3 \newcommand{\QueEx}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont%
4 \rensujiZW{\scalebox{1}[1]{? \hspace{-0.6zw}! }}}}}
5 \newcommand{\QueQue}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont%
6 \rensujiZW{\scalebox{0.8}[1]{? \hspace{-0.5zw}? }}}}}
7
8 \newcommand{\ExQue}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont\ajLig{!?!}}}
9 \newcommand{\ExEx}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont\ajLig{!!!}}}
10 \newcommand{\Que}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont ?\langle;}
11 \newcommand{\Ex}{\nobreak{\kanjiseris{m}\selectfont !\langle;}

```

入力面倒くさかったです。

```

1 \noindent\null
2 「そんなに桐乃の事が心配\Que」\
3 「当たり前じゃねえか\ExEx\Z 俺のたった一人の妹だぞ\Ex」\
4 「そう……{\fontsizeVIII 憎たらしい……}」

```

なお、定義の最初に`\nobreak`を付けています。そうすると、前の文字との分割を禁止します。行頭や行末であってもです。つまり、これで行頭禁止処理が出来ます。

また、`\Z`は全角空ける為に使います。行末だと消えます。クエスチョンマークやエクスクラメーションマークの後は全角空けなければ行けませんが、全角空白を使うと、行末でも空いてしまい、次の行頭に空白が来ます。`\Z`を使うと、それがないので便利です。

全角でなく半角にすると「ログ・ホライズン」の様になります。

```

1 % UTF 3030 WAVY DASH
2 %\def\~{\CID{12219}}
3 \def\~{\leavevmode\hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{-90}{\CID{12218}}}}
4 \def\WD{\leavevmode\hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{-90}{\CID{12218}}}}

```

WAVY DASH 「`\{`」を出します。これは電撃文庫で使われている字体です。MF 文庫 J だと、`\CID{12219}`で十分です。これで「`\}`」が出せます。

最も、最近の電撃文庫は`\kern-.3zw`~みたいな感じで繋げている様です。この縮め幅、数えてみると`0.25zw` なのですが、`0.3zw` 位の方が上手く繋がります。

```
\def\—{\—\kern-.5zw\kern-.5zw}
```

ダッシュ「—」を連続で並べても、繋がらないフォント（ヒラギノなど）で繋がります。ダッシュを`\scalebox`等を使って倍角にするのではなく、真ん中に重ねるのは、ダッシュと他の文字との分割・禁則処理等を、通常のダッシュと同じにする効果があります。

```
%濁点マクロ
```

```
%http://www.aozora.jp/blog2/2008/07/10/74.html
```

```
%を参考に改造
```

```
\newcommand{\dakuten}[1]{%
```

```
{\leavevmode\hbox to 1zw{\rensuji{\hbox to 1zw{#1\hspace*{-0.25zw}°}}}}
```

```
\newcommand{\handakuten}[1]{%
```

```
{\leavevmode\hbox to 1zw{\rensuji{\hbox to 1zw{#1\hspace*{-0.25zw}°}}}}
```

「あ」と濁点を付けます。

```
\kanjifamily{mc}\kanjiseriess{m}\selectfont
```

```
京介は“彼”だ
```

```
\kanjifamily{hmc}\kanjiseriess{m}\selectfont
```

```
京介は“彼”だ
```

otf パッケージの構築具合によっては、ダブルミニユートを二重引用符で出せます。

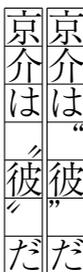


図 2.4 ダブルミニユート

2.7 ヘッダの組み方

ヘッダは、`fancyhdr.sty` を使うと細かく設定できます。

```

1 %% ヘッダーの設定
2 \usepackage{fancyhdr}
3 \pagestyle{fancy}
4
5 %タイトル設定
6 \newcommand{\titlename}{俺の黒猫が桐乃で桐乃が黒猫で}
7
8 %\thead{\thepage \hspace{1zw} \rightmark}
9 \fancyhead[L0]{\fontsizeVIII\okseries\hspace{-0.0zw}%
10   {\itshape\thepage} \hspace{0.75zw} \titlename}
11 \fancyhead[R0]{}
12 \fancyhead[RE]{\fontsizeVIII{\itshape\thepage} \hspace{0.0zw}}
13 \fancyhead[LE]{}
14 \chead{}
15 %\rhead{\thepage}
16 \renewcommand{\headrulewidth}{0pt}
17
18 \cfoot{}
19
20 %% fancyhdr 使用時の断ち切り外ノンブル
21 \usepackage{nombre_for_fancyhdr}
22 \pagestyle{fancy}           %後でないと反映されない。

```

これで、奇数ページの左に本の題名、偶数ページの右側にページ数だけが表示されます。ついでに、`\titlename` を設定しておく、他の色々な箇所に使い回せて便利です。

本の題名は簡単ですが、部題・`\part` を自動的に表示することは、今だ成功していません。章題・`\chapter` ならまだ楽なんです。

```

1 \part{第1部}
2
3 \fancyhead[L0]{\fontsizeVIII\okseries\hspace{-0.5zw}%
4   {\itshape\thepage} \hspace{0.75zw} 第1部}
5

```

```

6 \part{第2部}
7
8 \fancyhead[L0]{\fontsizeVIII\okseries\hspace{-0.5zw}%
9   {\itshape\thepage} \hspace{0.75zw} 第2部}

```

と、手動で変更するならば、一応変更できます。

なお、本書と平行して執筆中の「ログ・ホライズン」本では以下のように設定する予定です。章によって、四角の数が変わります。

```

1 \fancyhead[L0]{}
2 \fancyhead[RO]{}
3 \fancyhead[RE]{}
4 \fancyhead[LE]{}
5
6 \makeatletter
7 \def\NumToSquare#1{%
8 \ifcase#1
9 \or
10 ■ \or
11 ■■ \or
12 ■■■ \or
13 ■■■■ \or
14 ■■■■■ \or
15 ■■■■■■ \or
16 ■■■■■■■ \or
17 ■■■■■■■■ \or
18 ■■■■■■■■■ \or
19 ■■■■■■■■■■
20 \fi\relax}
21
22 \renewcommand{\chaptermark}[1]{\markboth{\romanfamily{pplx}\selectfont
23   CHAPTER. {\color[gray]{0.75}\NumToSquare{\cchapter}}
24   \thechapter\hss #1}{}}
25 \makeatother
26
27 \setlength{\fboxsep}{0truemm}
28
29 \ifWWWpublish % dvi
30 \fancyfoot[RO]{\fontsizeVIII\romanfamily{pplx}\selectfont%
31 \fcolorbox[gray]{0}{1}{\hbox to 6zw{\color[gray]{0}{}}

```

```

32 \hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{-90}{▲}}\itshape\thepage}}}}
33 \fancyfoot[LE]{\fontsizeVIII\romanfamily{pplx}\selectfont%
34 \fcolorbox[gray]{0}{1}{\hbox to 6zw{\hss\color[gray]{0}{%
35 {\itshape\thepage}\hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{90}{▲}}}}}}
36 \else % pdf
37 \fancyfoot[RO]{\fontsizeVIII\romanfamily{pplx}\selectfont%
38 \fcolorbox[gray]{0}{0}{\hbox to 6zw{\color[gray]{1}{%
39 \hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{-90}{▲}}\itshape\thepage}}}}
40 \fancyfoot[LE]{\fontsizeVIII\romanfamily{pplx}\selectfont%
41 \fcolorbox[gray]{0}{0}{\hbox to 6zw{\hss\color[gray]{1}{%
42 {\itshape\thepage}\hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{90}{▲}}}}}}
43 \fi
44
45 \fancyfoot[LO]{\fbox{\hbox to 18zw{\fontsizeVIII\hspace{-0.0zw}%
46 \hspace{0zw} \hbox to 1zw{\rotatebox[origin=c]{-90}{▲}} \leftmark}}}
47 \fancyfoot[RE]{\fbox{\hbox to 18zw{\hss\fontsizeVIII\titlename}}}
48
49 \thead{}
50 \renewcommand{\headrulewidth}{0pt}
51
52 \cfoot{}

```

2.8 空行と空白ページ

空行を入れるには、`\VS` を定義して並べます。

`\vspace` だとページ変わり目で消えたり、`\vspace*`だと、前後で引っ張られてしまっ、改ページする場所がおかしくなります。

```

1 \newcommand{\VS}{\par{\vbox to 0.5zw{}}}

```

空白ページを入れるにはこうします。改ページした後、ページスタイルをヘッダなどが無い物にしにします。そして、このページを有効にするために見えない箱を配置します。

```

1 \newpage
2 \thispagestyle{empty}
3 \mbox{}

```

2.9 目次の出し方

目次は下記のように出しています。

```

1 %% 目次
2
3 \begin{minipage}<y>{\textheight}
4   \begin{center}
5     \vspace{0zw}
6     %   \scalebox{1.8}{\midasifont \titlename}\\
7         {\fontsizeXX\midasifont \titlename}\\
8     \begin{minipage}<y>{0.9\textheight}
9       {\normalsize\setlength{\baselineskip}{1.7zw}
10        \tableofcontents}
11     \end{minipage}
12   \end{center}
13 \end{minipage}

```

\minipage を使い、ここだけ横組みにしています。

2.10 sty ファイル読み込み

\documentclass[a6paper]{tondbook} と \begin{document} の間のことをプリアンブル (preamble) と言いますが、ここで各種 sty ファイルを読み込んだり、パラメータを設定していきます。

```

1 \usepackage{plext}
2
3 \usepackage{okumacro}
4
5 \usepackage{txfonts}
6 %\usepackage{mathptmx}
7 \usepackage[scaled]{helvet}
8 \renewcommand{\ttdefault}{pcr}

```

plext は、縦書き拡張用のパッケージです。縦書きだと自動的に読み込まれるらしいですが、念のために読み込みます。

txfonts は、英数字のフォントを Times に変える、mathptmx は数式モードでの英数字を Times に変えるパッケージです。これらは共存できません。後に読み込んだ方が有効になります。リガチャは前者の方が優秀ですが、 \int の記号は後者の方が好きです。最も、小説で数式を使うことはほとんど無いでしょうが、Times は PDF での標準のフォントです。L^AT_EX 標準の Computer Modern が良ければ読み込まなくて良いです。

This is New Century Schoolbook は日本人には馴染みが深いフォントです。欧米人からすると、教科書みたいでダサイとされると聞いたことがあります。

Times はリュウミン L と組み合わせると少し太いので、Computer Modern だと太さ合うのかと思ったりもします。筆者はもっぱら Times 使ってますけど。

This is Computer Modern font. L^AT_EX normal. fi, ffi, fl, ffl.

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !?

This is Times font. PDF normal. fi, ffi, fl, ffl.

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !?

This is New Century Schoolbook font. fi, ffi, fl, ffl.

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !?

This is Palatino font. fi, ffi, fl, ffl.

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !?

そして、Helvetica を使う命令と、Courier を使う設定です。txfonts を使うと、タイプライタ体が独自の物になってしまうので、Computer Modern Typewriter Type を使いたければ、pcr ではなく cmtt にします。

okumacro は、奥村晴彦先生の便利マクロです。

```
\usepackage{booktabs} % 罫線
```

罫線を拡張します。表紙や奥付などで、凝った事をしなければ必要ないでしょう。

```
1 \newif\ifWWWpublish
2 \WWWpublishfalse           % dvipdfm
3 \WWWpublishttrue          % dvips・dvi時は有効にする。
4
5 \ifWWWpublish
6   \iftombow
7     \usepackage[dvips,bookmarks=true,bookmarksnumbered=true,%
8     bookmarkstype=toc,setpagesize=false]{hyperref}
9   \else
10    \usepackage[dvips,bookmarks=true,bookmarksnumbered=true,%
11    bookmarkstype=toc]{hyperref}
12  \fi
13 \else
14   \iftombow
15     \usepackage[dvipdfm,bookmarks=true,bookmarksnumbered=true,%
16     bookmarkstype=toc,setpagesize=false]{hyperref}
17   \else
18     \usepackage[dvipdfm,bookmarks=true,bookmarksnumbered=true,%
19     bookmarkstype=toc]{hyperref}
20   \fi
21 \fi
```

ハイパーリンクを張るようにします。印刷時は当然関係ありません。PDF で公開する場合、目次や注釈にリンクが張られ、クリックすると章や節に飛べるようになります。

`\WWWpublishttrue` を有効にすると、上半分が使われ、`xdvi` で目次がハイパーリンクになります。無効にすると、下半分が使われ、PDF でハイパーリンクになります。

`\ifWWWpublish` は元々画像を読み込む時、軽い物を使うか重い物を使うかを選択するために作りました。執筆時等では軽い方が、入稿用では重くても品質の良い画像を読み込む必要がありますから。

最も、最近では WWW 公開を余りしなくなったり、画像は読み込むのではなく、印刷所で差し換えて貰ったりするので、名前が少し変ですが。

そして、トンボ付きでレイアウトを確認する場合、`setpagesize=false` を付けています。付けないと、用紙サイズまでしか出力されないの、右下が切れます。

ハイパーリンクは、目次や脚注は自動で付きます。

```
1 \url{http://p-act.sakura.ne.jp/}
```

とすると、URI にリンクが張られ、クリックするとその WWW ページを見ることが出来ます。

```
1 \AtBeginDvi{\special{pdf:tounicode EUC-UCS2}} % 目次用  
2 % 右綴じ用  
3 \AtBeginDvi{\special{pdf:docview  
4 <</ViewerPreferences <</Direction /R2L>> >>}}
```

ついでに、上記のようにすると、PDF にした時に「しおり」が文字化けしなくなり、見開き表示した時に、ページが右から左に表示されるようになります。

第 3 章

小説組版 上級

3.1 レイアウト

これから上級編に入りますが、レイアウトをより本格的に設定する方法を解説します。

3.1.1 長さの単位

まずは長さの単位からです。

L^AT_EX では様々な長さの単位を扱えます。

pt は普通の DTP では 1/72in ですが、L^AT_EX の場合は違います。DTP ポイントは bp です。

この時、注意しなければならないのは zw です。横書き時は幅ですが、縦書き時は高さになります。美文書には「ベタ組み時の字送り量」とありました。これが分かりやすいでしょう。

zh は、標準では $1zw = 1.05zh$ 程度、otf パッケージだと $1zw = 1zh$ となります。混乱の元なので、使わない方が良いでしょう。

級は、日本語の文字の大きさを表すのに使われます。齒は、行送りや字送りの単位で使われます。長さは同じですが、この様に使い分けられます。

ちなみに、sp は L^AT_EX が扱う最小単位です。内部でこの単位に変換し、整数演

表 3.1 長さの単位

cm	センチメートル
mm	ミリメートル
in	インチ (1 in = 2.54cm)
pt	ポイント (72.27pt = 1 in, 0.3514598mm)
bp	ビッグポイント (72bp = 1 in) (65781sp = 1bp)
sp	スケールドポイント (65536sp = 1 pt)
zw	現在の和文フォントの幅 (横書き時。縦書き時は高さ)
zh	現在の和文フォントの高さ (横書き時。縦書き時は幅)
Q	級 (1 Q = 0.25mm)
H	歯 (1 H = 0.25mm)

算します。浮動小数点演算でなく整数演算の為に、CPU が異なっても演算結果が同じになります。

文字の大きさは `\normalsize` 等で指定できます。`\normalsize` は標準では 10pt ですが、和文はこれよりも小さくなります。標準の場合と、`morisawa.sty` を読んだ場合、`otf.sty` を読んだ場合で、色々異なります。

表 3.2 10pt 時和文フォントサイズ

tbook.cls	zw	9.62216pt
	zh	9.16443pt
tbook.cls	zw	9.24687pt
morisawa.sty	zh	8.80698pt
tbook.cls	zw	9.62216pt
otf.sty	zh	9.62216pt
tbook.cls	zw	9.24687pt
morisawa.sty, otf.sty	zh	8.80698pt

これらのサイズは、

```
1 \dimen0=1zw
2 \the\dimen0
```